

東北の子どもたちに

“Jリーグ体験”をプレゼント

サッカーを通じて、東北の人々に熱い雄姿を届けたい、心の底から笑顔になってもらいたい——そんな思いを持つJ1リーグの人気クラブ「ベガルタ仙台」とともに、あんしん財団が今回行ったのは、「Jリーグ体験のプレゼント」。「一生の思い出」と喜んでくれた、子どもたちの様子をお伝えします。



天然芝のピッチでミニゲーム
 Jリーガー気分でプレーも冴える!

宮城県内と、福島県白河市、郡山市から招待された低学年と高学年の子どもたちが、ピッチでミニゲームを行いました。いつもよりいいプレーができた子も、シュートが決まらなかった子も、低学年の子どもたちは一様に「楽しかった〜」。高学年の子どもたちの中には「次に芝でプレーするときの課題が見つかった」「ベガルタ仙台の選手になって戻ってきたい」という、頼もしいメッセージをくれる子もいました!



(上) 試合以外のピッチ開放は、天然芝の管理の難しさから、年に2回しか行われません。そんな貴重な機会をもらって、子どもたちはいつも以上に躍動していました!



試合前のセレモニーに参加したよ!

あこがれのスタジアムで見学&体験&セレモニー!“初めて”の連続に大興奮!

2018年5月12日、宮城県仙台市で行われた明治安田生命J1リーグ公式戦第14節「ベガルタ仙台vsサンフレッチェ広島」は、あんしん財団が東日本大震災の被災地復興支援を目的にマッチデーゲームスポンサーとなり行われました。

ホームクラブのベガルタ仙台は、発足当初から東北に根差した市民クラブとして、2011年3月11日以降は東北の復興と子どもたちの笑顔のため活動を続けています。そんな「宮城・東北Dream Project」に当法人も賛同。「きずな・みらいプロジェクト」と

して、今回のマッチデーゲームにつながりました。

今回、試合には、宮城県内と福島県白河市、郡山市から300人の子どもたちとご家族を指定席に招待しました。さらに子どもたちには、試合観戦以外にも、通常は入れない場所を案内されるスタジアムツアー。そして、もっと大きなプレゼントが……。

なんと、試合前のピッチを使って、思う存分サッカーを楽しんでもらおうとミニゲームを行いました。ベガルタ仙台のホーム「ユアテックスタジアム仙台」は、約2万人を収容するフットボール専用スタジアム。スタンドから応援する保護者の声を受けながら、青々とした天然芝の上で、全力でミニゲームを楽しみました。

招待されたのは、低学年(1~2年生)と高学年(5~6年生)の子どもたち。低学年の子は、「2011年生まれ」です。震災から8年目、これだけ立派なピッチで元気に走り回る姿を見せてくれた子どもたちは、東北復興の明るい未来を表しているようでした。

体験後は、保護者と一緒に試合を観戦。一部の子は、試合前のセレモニーにも参加しました。

「このイベントを通じて、子どもたちが仲良くなり、きずなを深めてくれたらうれしいです」(当法人 原田東北支局長)。あんしん財団は、日本を支える子どもたちの成長を、さまざまな活動を通してこれからも応援していきます!

首位広島に東北のきずなを見せた! 好連携からの先制で、大熱狂の試合に

第13節までに11勝、失点わずか5と首位を独走するサンフレッチェ広島との対戦となったベガルタ仙台。迎撃つベガルタ仙台サポーターの熱量も大きく、1万5千人を超える観衆が集まりました。子どもたちは、エスコートキッズとして選手と入場し、花束贈呈、始球式にも参加してセレモニーを盛り上げます。試合は、仙台が果敢に攻め、なんと前半12分に先制ゴール! 子どもたちも大歓声を送ります。その後に逆転され、1-3で敗れましたが、その雄姿は一生の思い出になったはず。



国内最高峰の試合を観戦



(上) ついさっき自分がプレーした芝生で、Jリーガーたちがプレーする風景は、これまでに見たどの試合よりも、きっと印象的に映ったはず。



©VEGALTA SENDAI